

「新中津市学校（仮称）」設立！

1. 概要

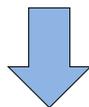
26年間、市民のみなさんに親しまれてきた中津市歴史民俗資料館は、平成31年秋にオープンする中津市歴史博物館に資料館機能を移すため、平成30年6月末をもって閉館しました。

今後、建物の耐震・改修工事を行い、来年度、「学びたい教育のまちづくり」の推進拠点施設の一つになる「**新中津市学校（仮称）**」としてリニューアルオープンします。

また、この地は慶応義塾の塾長を務めた小幡篤次郎の生誕地でもあり、この縁を活かし「**新中津市学校**」では、慶応義塾と連携し、福澤諭吉の精神を広める事業を展開していきます。

2. 新中津市学校の事業内容

- ・ 地域交流
- ・ 市民の学習・仕事スペース提供
- ・ **慶応義塾との連携事業** 等



3. 慶応義塾との連携事業内容

- ・ 福澤諭吉、慶応義塾に関する研究
- ・ 研究成果の情報発信と市民への還元
- ・ 人材育成
- ・ 全世代に対する学習の場の拠点



平成30年6月27日に「新中津市学校開設準備委員会」が発足。

中津市と慶応義塾が、ここ「新中津市学校」において、共同研究を行うことについて、協議を進めています（別紙詳細）

※ 「中津市学校」…福澤諭吉の提言により中津市に開設された英学校で、その正門は、現在の中津市立南部小学校の正門として、今も子どもたちを迎えています。
福澤諭吉の著書として有名な「学問のすゝめ」は、この中津市学校の開校に際して書かれたものです。

【問合せ先】

社会教育課 担当：高尾
(TEL：0979-22-1111・内線 480)

「新中津市学校」(仮称)設立構想(案)



福澤諭吉の故郷～中津市

中津市は大分県の県北の中核都市であり、福岡県との県境に位置します。人口は約85000人で、市の中心は海に近い城下町です。山陽新幹線のJR小倉駅からJR中津駅までは特急で30分です。北九州空港からは車で50分、福岡空港、大分空港からは車で1時間30分の距離となります。

福澤諭吉旧居をはじめ、城下町の諭吉ゆかりの地はいずれも、JR中津駅から徒歩15分圏内です。



福澤諭吉ゆかりの地



国史跡 福澤諭吉旧居



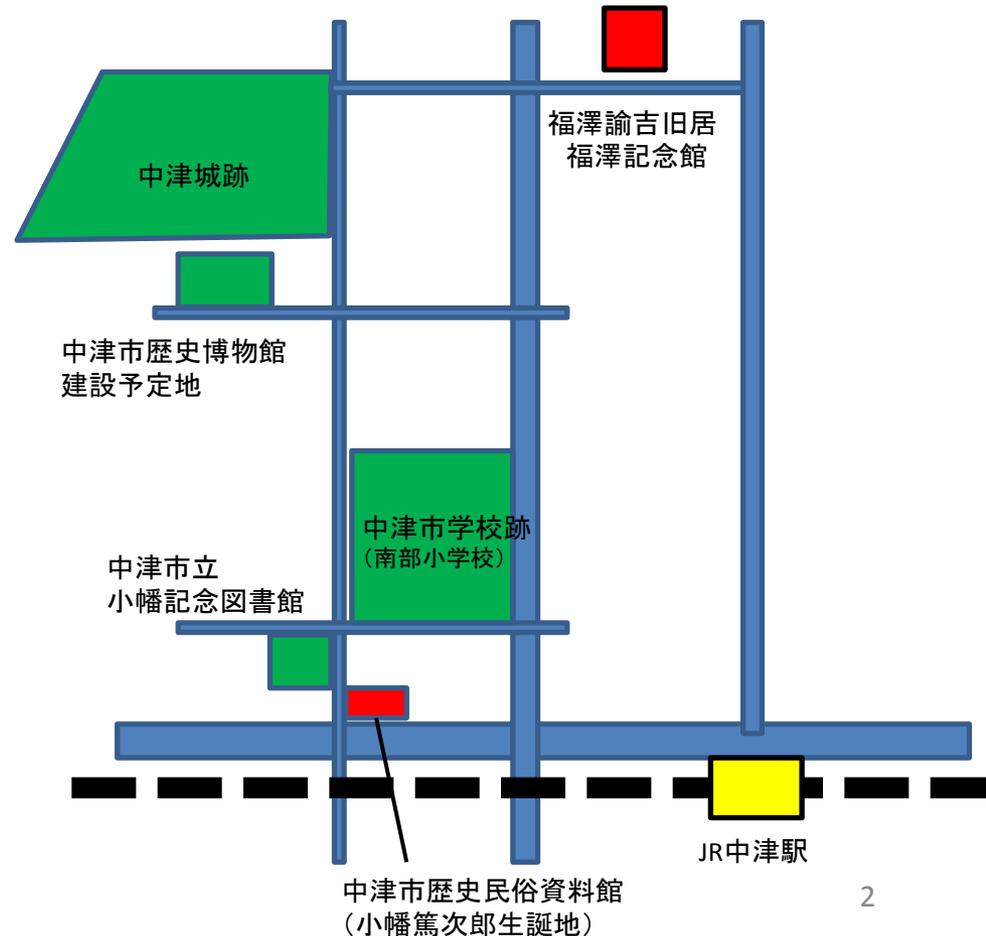
福澤記念館



諭吉が私財を投じて景観を守った
国名勝 耶馬溪(競秀峰の景)
(JR中津駅から車で30分)



県史跡 中津城跡
(市史跡 独立自尊の碑があります)



中津市では「福澤諭吉記念事業」を行っています

「全国高等学校弁論大会」



慶應義塾との共催事業。審査委員長は慶應義塾大学の教授がつとめます。

「近郊小中学校書写展」



慶應義塾後援事業。子供たちが諭吉に関する言葉を書写します。

「諭吉かるた」大会



慶應義塾後援事業。「料飲三田会」作成の「諭吉かるた」を使用します。

「アーカイブズ講座」は慶應義塾との連携事業です



初級コースには慶應義塾大学及び附属高校の生徒さんが参加。福澤旧居を見学し専門家の授業を受けます。



旧家の襖の下張文書をはがす実習。福澤諭吉の姉の嫁ぎ先の襖下張文書には諭吉の父の手紙もありました。



資料の撮影実習もします。講座の調査成果をもとに後日報告書を刊行します。

福澤諭吉と小幡篤次郎の想いが結実した「中津市学校」



小幡篤次郎肖像写真
(中津市歴史民俗資料館蔵)



中津市学校の正門は、小学校の正門として学童を迎えています。

【篤次郎の経歴】

小幡篤次郎は、天保13年(1842)、中津殿町に中津藩士の息子として生まれました。勉学に優れ、藩校・進脩館で教育に従事していた元治元年(1864)、福澤諭吉のすすめで江戸に出て、諭吉の塾に入り、英学を学びました。短期間で英語を習得し、幕府開成所で二等英語教授を務めるまでになりました。

【慶應義塾塾長へ】

学識者として、教育や著作活動に活躍した篤次郎は、明治23年(1890)、慶應義塾塾長となりました。慶應義塾では福澤につぐ中心人物となり、福澤や慶應義塾の業績への貢献は、衆人の認めるところとなりました。福澤の歿後には、慶應義塾社頭も務めています。

【中津市学校と「学問のすゝめ」】

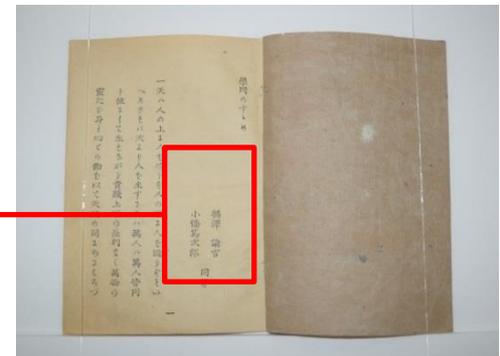
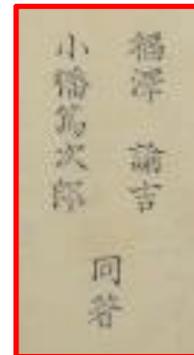
明治4年(1871)かねてからの諭吉の提言がみのり、旧藩主と旧藩士たちの出資により英学校「中津市学校」が開設されました。「学問のすゝめ」初編は、開校の際に福澤諭吉と小幡篤次郎の共著の形で出版されたものです。

小幡篤次郎が中津市学校の初代校長となり、学校の規則はすべて慶應義塾の規則に従って定められ、教員には慶應義塾の中津出身者が派遣されました。まさに慶應義塾の分校というべきものでした。日本一大きな英学校といわれ、一時は600名ほどの生徒が中津で慶應義塾の教えをうけました。

【初版本の発見】

近年、諭吉と篤次郎の故郷中津市で、「学問のすゝめ」初版本が発見されました。

中津で学ぶ人達に学問の大切さを伝えようとした二人の想いが伝わってくるような出来事です。



諭吉と篤次郎の共著「学問のすゝめ」初編

諭吉の意志、篤次郎の遺言・・・「中津図書館」設立

そして、「中津市歴史民俗資料館」へ



閉館した中津市歴史民俗資料館

【篤次郎の遺言】

篤次郎は明治38年(1905)病没します。篤次郎の遺言に従って、中津市学校にほど近い生家の土地、家屋、蔵書の半分は中津に寄附され(半分は慶應)、明治42年(1909)、「中津図書館」が設立されました。

現在の建物は昭和13年に建て替えられた2代目「中津図書館」です。

【諭吉が伝えたビブリオテーキ】

福澤諭吉は「西洋事情」の中で、西洋の図書館「ビブリオテーキ」の概念を紹介し、日本の近代図書館の成立に影響を与えたといわれています。篤次郎の遺言でできた「中津図書館」は、福澤諭吉の意志をついだものといえます。

【中津市歴史民俗資料館へ】

平成4年、図書館は建て替えとなり、それまでの図書館は「中津市歴史民俗資料館」として生まれかわりました。

平成9年、国の登録文化財に登録されています。



中津市立小幡記念図書館



図書館の小幡篤次郎コーナー

【中津市立小幡記念図書館へ】

旧中津市図書館の道を挟んだ対面に、「中津市立小幡記念図書館」が新設されました。

篤次郎の蔵書は新図書館へ移り、閲覧室には篤次郎関係資料の展示コーナーを設置して功績を顕彰しています。

福澤諭吉と小幡篤次郎・中津市には二人の想いが生きています

- ・城下町中津には、短冊型の町割り、旧町名、中津城に寺社仏閣と、二人が暮らした風景が残っています。
- ・「中津市学校」跡地は小学校の学び舎になり、「中津図書館」は「中津市歴史民俗資料館」として公開されていました。
- ・「中津市歴史民俗資料館」のまわりには、福澤旧居をはじめ、福澤記念館、慶應義塾で学んだ人々ゆかりの旧跡があります。

平成31年、中津城近くに「新中津市歴史博物館」が開館し、現在の「中津市歴史民俗資料館」はその役目を終えました。

**「中津市学校」から150年、
今ふたたび、中津市に「福澤諭吉の精神をひろめる拠点」として
「新中津市学校」の開設を目指す**

**「中津市歴史民俗資料館」こそ、
「新中津市学校」にふさわしいと考えます。**



国登録文化財のレトロな建築物「中津市歴史民俗資料館」

「中津市歴史民俗資料館」を「新中津市学校(仮称)」へ

校名:新中津市学校(仮称)

【基本方針(案)】

- ①慶應義塾大学と中津市で、福澤諭吉や慶應義塾に関する研究を近代日本研究につなげ、相互の連携強化を推進する
- ②世界に通用する研究を蓄積させ、その成果を情報発信するとともに中津市民にも還元する
- ③福澤諭吉のアイデンティティーに関わる場所とし、人材育成などにつなげる
- ④『学問のすゝめ』の精神に基づき、全世代に対する学習の場の拠点とする

【参考】

○平成30年6月27日(水)、慶應義塾と中津市で『新中津市学校開設準備委員会』発足

○今年度中に基本方針や具体的内容を決める

○現在、慶應義塾福澤研究センターと、共同研究にかかる人材の市への受入れや福澤研究センター所蔵資料を新中津市学校(仮称)で一部保管することについて協議中